

私たち産業カウンセラー・キャリアコンサルタントなどにとって、自研さんは欠かせない。しかし、働きながら学ぶことがいかに容易ではないかは皆さんもよく存じのことでしょう。

北陸という地域は冬の大雪・立ち往生の二ユースにもあるように、北陸新幹線が開業し

## ナビゲーター

たとはいえ、地理的な要因を含めさまざまな制約がある。中でも仲間との研さん機会の確保には費用面もあり特に苦労する。地域格差という表現は好まないが、それを理由にはしたくない(させたくない)という思いから、所属団体、養成団体の枠を超えた学び合う場づくりを第一の目標に、2018年2月に「ICCPボ(INNOVATIVE CAREER CO NSULTING LABORATORY)北陸」を設

11

## 産業カウンセラーの現場から

相談者の思いに共感して 相談者の思いに伴走する

# 仲間との連携で多角的な支援

立した。

当初5人だったメンバーは、口コミで広がり現在38人に。メンバーはさまざまな経歴や活動領域を持つ。その経験の交流や共有、触発し合う姿勢は「友」であり、「仲間」であり、「ライバル」、時には「メンター」でもあると言える。

昨年来のコロナ禍においては、いち早くオンライン化を模索しZoom勉強会を実施。また人数を制限しての集合研修ではオンラインとの違いをより鮮明に実感した。今求められる支援者としての在り方を的確にとらえ、ハイブリッド型開催などITスキルの向上を含め、オンライン面談からコロナ失業対策、メンタルヘルスへの対応まで、メンバーが相

## 学びを通じたネットワークづくり

互に教え合い学び合う場となっている。

また、ここでの出会いをきっかけに、自身のクライアントやその他の課題に対してのリソース(資源)として、お互いの活用にもつながっている。例えば、大学のキャリアセンタ―など学生支援の現場で学生の一人が、「就職活動がうまくいかないのは自分の発達上に問題がある」「気分が落ち込んで眠れない、体調も思わしくない」と語る。このようにカウンセラーとしてどう対応してよいか分からないといった相談を受けた際に、顔の見えないリファ―先につなぐことは、やや不安な部分があるものだ。そんな時、ラボでの出会いやつながりの中で安心して相談できる存在として、またメンバーが互いに橋渡しをす

互に教え合い学び合う場となっている。

ることで連携がスムーズにいくケースもある。同様に、企業領域で活動しているメンバーが講師になり、求職者や学生支援をしている仲間に役立つ情報の共有を行ったりしている。

われわれはそれぞれが現場を持つ専門家ではあるが、一人ですべてのことをカバーすることはできない。しかし、対象とするクライアントのキャリア(人生)は一面的なものではなく、とても立体的で多角的な視点が必要とされる。だからこそタテ・ヨコ・ナナメの存在が連携し合うことで、より適切な支援になっていくのだと思う。

そして、同じ地域で活動する者同士だからこそ、志を持って集まるメンバーとの交流は、それぞれのモチベーターにもなっている。

【キャリアオフィスみのわ代表 ICCLA ボ北陸主宰 シニア産業カウンセラー 1級キャリアコンサルタント技能士 養輪紀子】  
(火曜日に掲載)

